市川造園　の石井和久さんのお話　2012年12月17日

目的：街路樹管理の先進市事例として、10 月に江戸川区役所を訪問し管理状況などをお聞きした。実際に管理業務を請け負っている石井さんから、その立場・視点からのお話を伺った。

内容：江戸川区役所では、街路樹の量よりも質を上げよう、業者の質も上げようという思いがある。そのため、入札などを通して質の高い業者が残っていく仕組みがある。業者側も資格を取るなどスキルアップをはかっていこうと努力している。年度当初、受託したエリア全体の年間工程表を区に提出する。管理には、剪定だけでなく除草や低木の管理、落ち葉清掃も全て含まれている。区内 18 エリアの内、市川造園は２エリアを管理している。管理エリアは月 1 回必ず巡回し、月ごとに書面で報告している。樹木の剪定は、目標樹形カード（高さ、葉張、形、統一美、先を見据えた剪定）に沿って行う。管理には緑道も含まれ、問題のある箇所の調査をおこなって、対策を提案している。他に樹木台帳、病害虫対策などについても詳しく教えていただいた。

成果：熱意をもって仕事をされている様子が感じられ、担当課との情報の共有も十分とれているようだ。
千葉市にも樹木台帳や目標樹形カードを取り入れてもらい、その樹木に相応しい樹形に剪定されることを望む。
また、より熱心で意欲的な業者を育てる必要性を感じた。

㈱塚原緑地研究所　塚原道夫さんのお話

2014 年 1 月 16 日

プロフィール
塚原道夫さん：
東京農工大農学部卒業、
（株）塚原緑地研究所 代表取締役 、技術士、樹木医、環境カウンセラー、みどりの計画・設計、市民活動のコーディネート、公共施設の指定管理者等として活躍中。

街路樹について

- 街路樹を見る人、樹木本体、管理する人の視点で考える必要がある。
- 樹木にとっては街路樹になることは不幸なこと。生育環境が悪すぎる。市民がそのことを理解することも必要。また、市民が街路樹に何を求めているのか整理すべき。
- ケヤキの下にツツジやサツキ、など定番の組み合わせはあるが、もっと地域の生態系のことも考えた植栽があってもいいのでは。
- 道路業者が剪定を行う場合もあるが、樹木のことをわかっているのか。行政が樹木管理のためのマスタープランを作り、コンセプトを持ってやっていくべき。

公園管理について

- 同じ業者が続けて管理している例が多い。競争しないと楽な方へ流れがち。今ある公園をいかに使うか、市民も交えて考えるべき。
- 自治体は公園の利用者数も把握していなかった。普通は次年度の予算を考えるのに必要なデータ。お客が来ないほうが何もしなくていいから楽、という考え方が自治体にある。
- 日本庭園や森をつくるノウハウはあるが、雑木林を管理する技術が育っていない。３０年前に作った公園を今後どうしていくかの議論で今苦労している。

＊塚原さんは多数の施設の指定管理を請け負っているため、指定管理についてもお話を伺った

- 経過を大事にする行政のやり方に合わせると、民間としては結果を出すための柔軟性を発揮しづらい。
- 行政との契約が３～５年単位のため、雇用する側もされる側も先が見えない。
- 業者の選定過程が不透明。本当の意味の公募になっているか疑問。選考過程に選挙のような公正さが欲しい。公正であればこそサービスの向上が図れる。
- 全てを民間に任せると、効率重視となり儲からない事業を切り捨てる場合もある。公共サービスとして継続すべきものは、きちんと行政で見ていく必要がある。